

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



発芽までに行う病害虫防除作業



- 今シーズンが始まる発芽までに行う病害虫防除をまとめました。
- 休眠期防除は、樹体生育が開始する前に病害虫の初期密度を低減し、その後の生育期全般にわたり発生を低く抑えるために実施します。
- 特に、昨年は晩腐病が多発したので、感染源となる果梗の切り残し、まきひげの除去等の棚面の衛生管理をして下さい。
- ベンレート水和剤やデランフロアブル等の防除剤は、希釈倍率が低くコストが高くなりますが、防除効果が高いので防除暦にしたがい散布して下さい。

表 発芽前までに徹底するブドウの病害虫防除(JA全農やまなし)

実施時期	対象病害虫	使用薬剤・作業
主に発芽前	晩腐病 カイガラムシ類	果梗の切り残し・まきひげの除去、粗皮はぎ
2月下旬(秋防除を行わなかった場合)	ブドウトラカミキリ	トラカミキリ防除剤
発芽期(3月中旬～4月上旬)	サビダニ類 ブドウハモグリダニ	石灰硫黄合剤 20倍
巨峰系、テラウエア、甲州： 発芽期(3月中旬～4月上旬)	黒とう病、つる割病、 晩腐病	ベンレートT水和剤20 200倍 (石灰硫黄合剤を2週間前までに散布) ベンレート水和剤 200倍(石灰硫黄合剤と混用可)
シャインマスカット、甲斐路系、ロザリオピアンコ： 発芽期(3月中旬～4月上旬)	黒とう病、つる割病、 晩腐病	デランフロアブル 200倍(単用散布、石灰硫黄合剤とは散布間隔を5日以上あける)



ブドウの水揚げが始まります



- 3月上中旬になるとブドウでは水揚げが始まり、いよいよ発芽が近いことを実感します。
- ブドウ樹は根で土壤水分を吸収し、幹や枝内部の道管を通じて水分を樹体内の各部に送ります。
- 冬期間中は道管内部に水分が多いと道管が凍結して壊れたり、空気が混じり水分流動が不良になりやすくなります。それらを避けるため道管内は空に近い状態に保たれています。
- 春が近づくと本格的な生育開始に備えて、根圧により水が押し上げられ枝の水分量が増加します。
- 水分量の増加は、他の果樹でも見られます。ただし、つる性植物のブドウでは自ら幹を支える必要が少ないのでリンゴより道管が2倍以上太く、やや粗い構造です。この結果、水の流動が良好となり、切り口から樹液としてこぼれ落ちるのです。



いのち目覚める「揚水」
(三澤農場 Photo by Yumiko Ito)